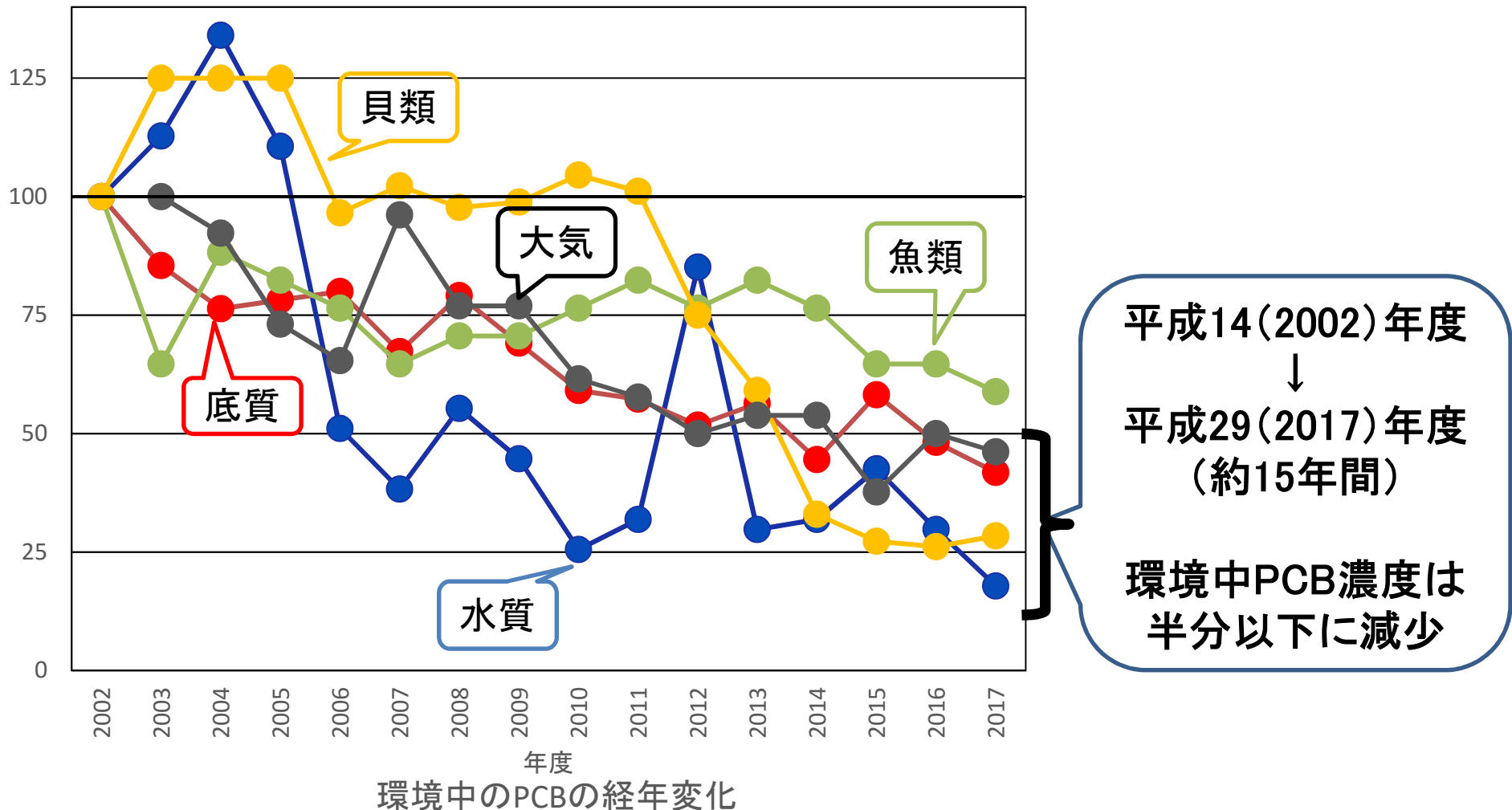


環境中のPCB濃度の経年変化

資料7

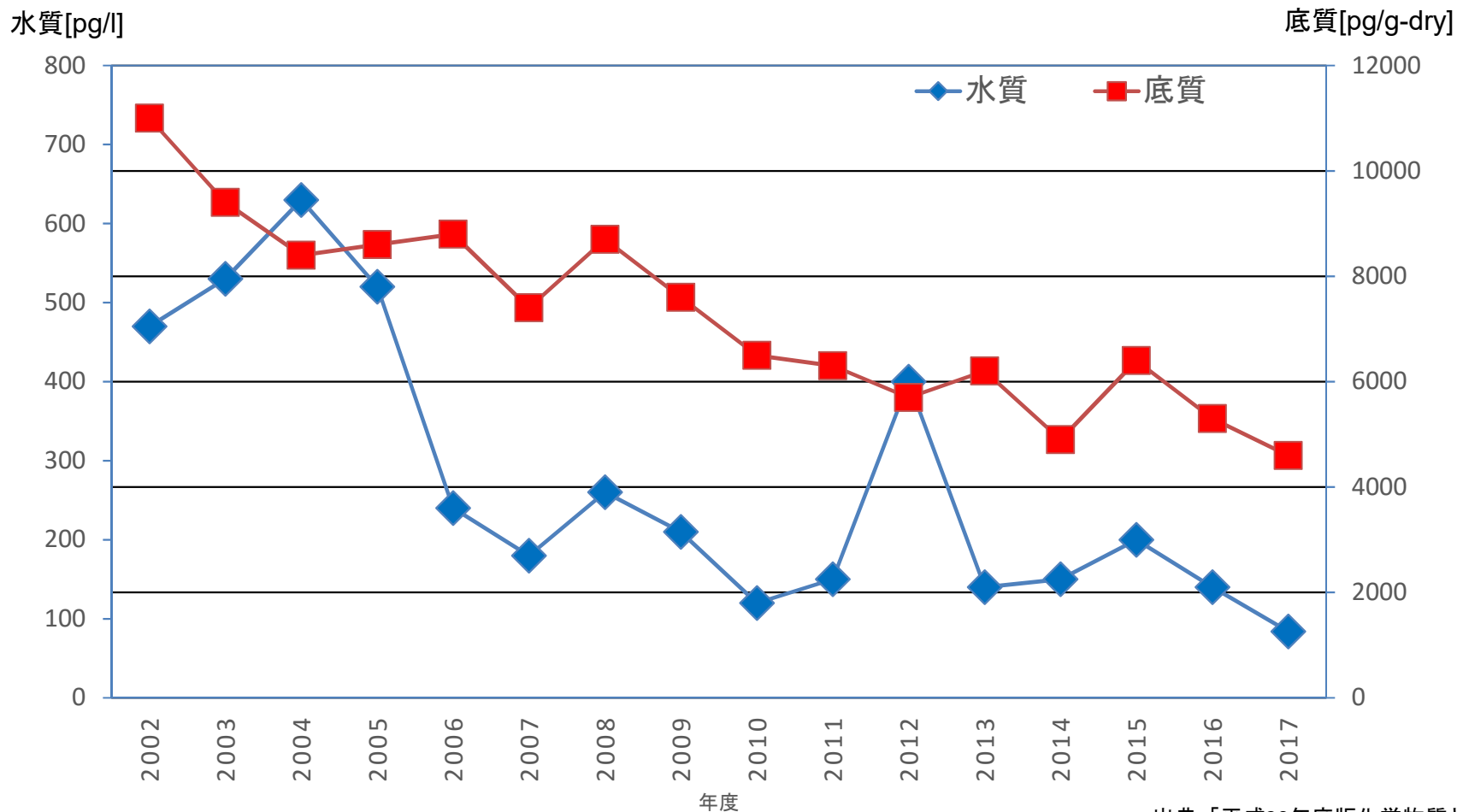
- 最近約15年間の環境中のPCB濃度は減少傾向。
- 特に、水質、底質、貝類及び大気は、減少傾向が統計的に有意で、約15年間で半分以下に減少。

(2002年の値(大気は2003年の値)を100とした指数)



環境中のPCB濃度の経年変化 - ①水環境

水質については47地点を、底質については62地点を調査し、平成14(2002)年度から平成29(2017)年度における経年分析の結果、水質全体及び底質全体として、減少傾向が統計的に有意と判定された。



出典:「平成30年度版化学物質と環境」(環境省)

水環境におけるPCBの経年変化(幾何平均値)

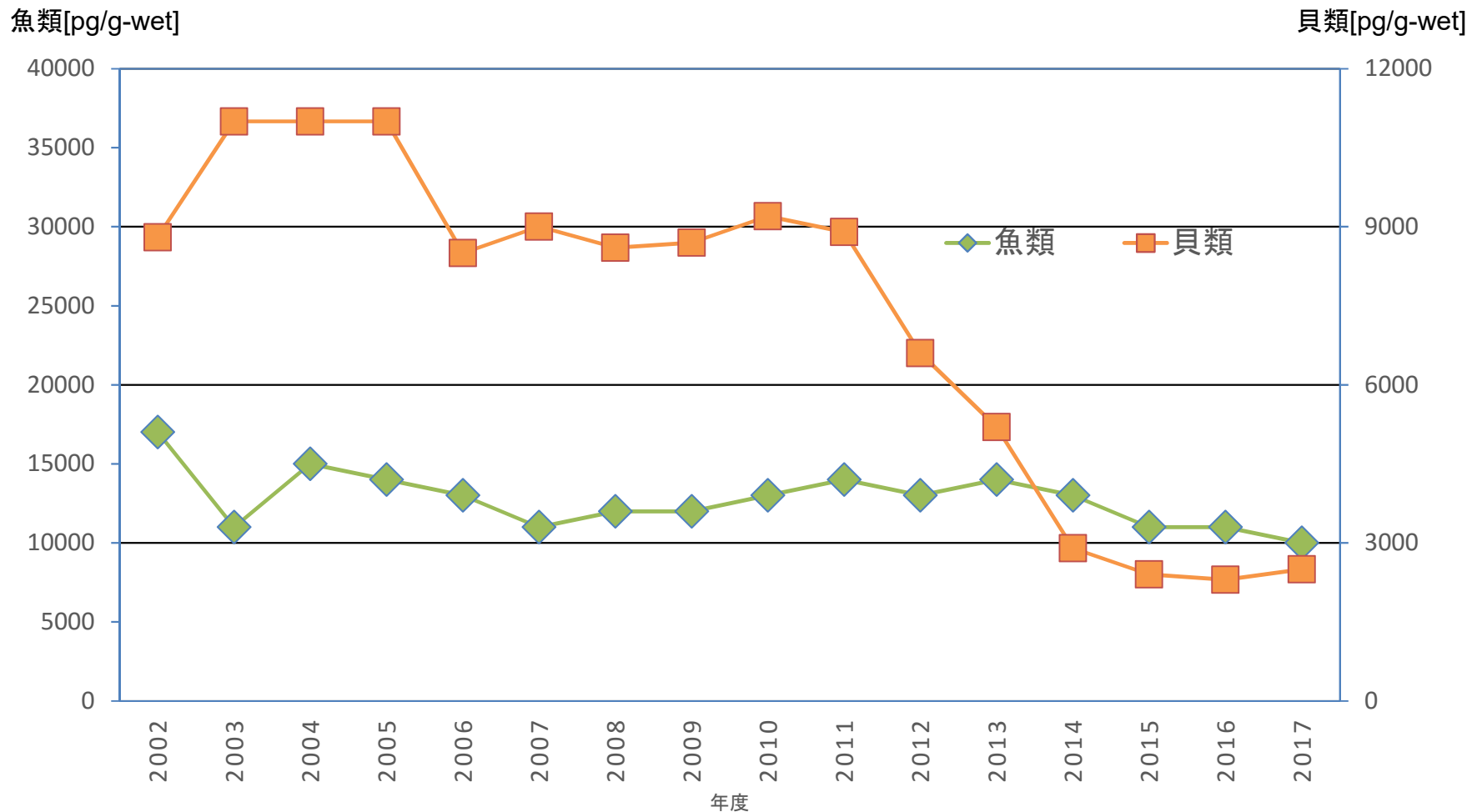
(参考)

「水質汚濁に係る環境基準」(昭和46年環境庁告示第59号) ・PCB: 検出されないこと。(定量限界:0.0005mg/l (= 500,000pg/l))

「底質の暫定除去基準について」(昭和50年10月28日 環境庁水質保全局長通知) ・PCBを含む底質の暫定除去基準: 10ppm以上 (= 10,000,000pg/g以上)

環境中のPCB濃度の経年変化 – ②生物

貝類については3地点を、魚類については19地点を調査し、平成14(2002)年度から平成29(2017)年度における経年分析の結果、貝類の減少傾向が統計的に有意と判定された。



生物におけるPCBの経年変化(幾何平均値)

出典:「平成30年度版化学物質と環境」(環境省)

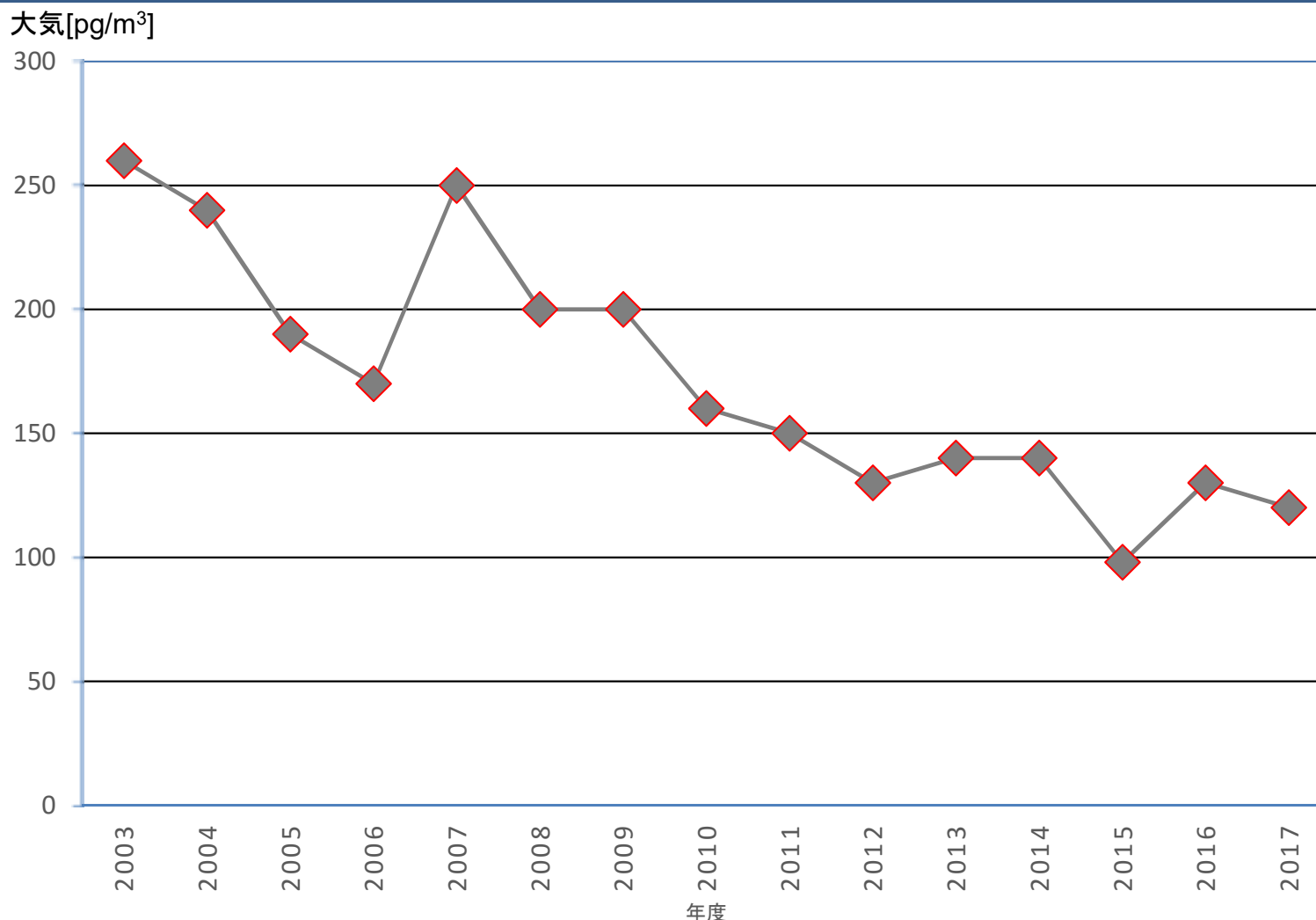
(参考)

「食品中に残留するPCBの規制について」(昭和47年8月24日 厚生省環境衛生局長通知)

・内海内湾(内水面を含む。)魚介類(可食部)のPCBの暫定的規制値: 3ppm (=3,000,000pg/g)

環境中のPCB濃度の経年変化 – ③大気環境

大気については、37 地点(各地点とも8月から10月の期間)を調査し、平成15(2003)年度から平成29(2017)年度における経年分析の結果、減少傾向が統計的に有意と判定された。



大気環境におけるPCBの経年変化(幾何平均値)

出典:「平成30年度版化学物質と環境」(環境省)

(参考)

「PCBを焼却処分する場合における排ガス中のPCBの暫定排出許容限界について」(昭和47年12月22日 環境庁大気保全局長通達)
・環境大気中のPCBの濃度が最悪の場合でも0.0005mg/m³ (= 500,000pg/m³)を超えないものとして、排ガスの排出許容限界を設定